

# 漁師として生きていく ～ I ターン漁業者奮闘記～

大田市漁業協同組合水産研究会  
宮本 章

## 1. 地域の概要

大田市は、島根県のほぼ中央部に位置し、海岸線は北東から南西に 23 km に及んでいる。人口は約 3 万 3 千人であり、世界遺産登録候補となっている石見銀山、雄大な自然景観が自慢の国立公園三瓶山を有し、文化や自然に恵まれた都市である（図 1）。

## 2. 漁業の概要

私の所属する大田市漁協は、正組合員は 203 人、准組合員は 177 人で、基幹漁業である小型底びき網漁業を中心に一本釣り漁業などが営まれている。平成 13 年の漁業生産状況は、水揚げ量 1,573 トン、水揚げ額 7 億 9 千万円であった。

また、大田市漁業協同組合水産研究会は主に一本釣り漁業者から構成されており、会員数は現在 17 名である。

## 3. 実践活動課題選定の動機

私は岩手県宮古市で生まれ育ち、中学卒業と同時に漁師の道を選んだ。遠洋マグロ延縄漁船の乗組員として全国を渡り、20 年間マグロを追いかけた。しかし、平成 3 年の結婚を機に、家を空けることの多い遠洋漁業では妻に負担をかけると感じたことから、思い切って船を降りる決心をした。船を降りてからの 9 年間は、陸で様々な職を転々としながら働いたが、自分の気持ちの中ではまだ海への未練がかなり残っていたのか、何となく満足できぬままの日々が続いていた。そんな矢先の平成 11 年夏、突然転機が訪れた。きっかけは、友人からテレビ番組で見た島根県のシイラ漬け漁の話を知ったことであった。「なるほど、沿岸漁業なら遠洋漁業と違い長期間家を空けずにすむので、目が不自由になってしまった妻の側にもいてやれる。しかも、島根にはこの年の 4 月に夫婦で旅行したばかりだ！」これも何かの縁と直感した。すぐに島根県漁連に電話をかけ、I ターンでも受け入れてくれる漁協を紹介してもらった。そこが現在の大田市漁協であり、小型底びき網漁船（以下、小底と略す）の乗組員を募集していた。ここでは、小底の乗組員になると船主が住宅を斡旋することになっており、頼る人のない私にとっては大きな魅力であった。平成 11 年 9 月、夫婦で大田市久手町に移り住んだ。シイラ漁の話を知ってから、わずか一月余りという駆け足での I ターン就業であった。

## 4. 実践活動状況及び成果

再び海に戻る決意をした私は、雇われではなく自立した釣り漁師になる決意を固めていた。I ターン者が漁師として自立するには様々な困難があることもわかっていたが、何よりも自己責任の仕事であれば、体の不自由になった妻のためにも融通がきく。このことが自立を決断した一番の理由であった。それに元来人に使われるのは嫌いな性分であり、実

力が儲けに反映する自立した漁師が私には合っていた。平成 12 年 7 月、小底の一漁期間（9 月～翌年 5 月）を無事勤め上げた私は、晴れて組合員として認められることとなった。

自立するためにはまず漁船が必要である。それまで蓄えた財産を処分して購入資金を用意していたが、高価な新船はとても無理だった。そこで漁協を通じて中古漁船を探してもらっていたところ、運良く他地区で適当な船が見つかった。その船は 4 トン漁船で建造後 20 年程度経過していたものの機関換装したばかりで、価格は 350 万円であった。船名は愛着を込め、私の名前にちなんで『宮章丸』とした（写真 1）。

なお、今まで雇われ漁師であったため船舶免許を持っておらず、漁船購入前に 1 級船舶と 2 級船舶無線の免許を取得した。

次に住居であるが、小底の乗組員時代の借家は、船を降りると出ていかなければならなかった。これについても漁協を通じて新居を探してもらったが、たとえ空き屋があってもよそ者には貸さないとされたという。仕方なく、当地への永住を覚悟で 20 年ローンによる新築を決意した（表 1）。

なお、この他、漁船改造費、漁具購入費、漁船保険加入費及び漁業共済加入費が自立する為の必要経費であった（表 2）。

これで自立への準備は整ったが、遠洋漁業の経験だけで釣り漁業ですぐに生計を立てられる程甘くないことはわかっていた。そこで、漁協を通じて水産研究会の先輩漁師を紹介してもらい、釣り漁業のいろはを教わることとなった。この地区ではイカ釣り、アマダイの延縄及びヨコワ（小型のマグロ）の曳縄が主に操業されており、イカ釣りとはアマダイの延縄の指導を 1 ヶ月程度受けた。それも直接教えてくれる訳ではなかったので、必死に技術を盗んだ。その間もちろん給料は出ず、残りわずかな貯金を切り崩して生活費にあてた。

操業当初はまさしく失敗の連続であった。延縄の餌となるイカを一日掛けて仕込むのだが、保存方法を間違え全て台無しにしたこと。船のスクリューで仕掛けを巻き込み、3 万円もする仕掛けを度々なくしたこと。すぐ隣の漁船は釣れているのに、私は全く釣れなかったこと。やっと苦労して釣ったアマダイを色落ちさせてしまい、一人だけ値が安いこともあった。アマダイの色落ちについては水氷の氷と塩の量を試行錯誤して解決した。しかし、とりわけ苦労したのはこの漁場を知らないことであった。

このように苦労は多かったが、水産研究会のある友人が私を支えてくれた。その友人は年齢が近いこともあり、一緒に出漁して漁場を教えてくれたり、漁業無線で連絡を取り合ったりしている。また、顔も広く、たくさんの人を紹介してもらった。今では他地区にも知り合いが多くでき、この友人には非常に感謝している。

様々な苦労を克服しつつ、自立して 3 年目を迎えた。私の年間の操業パターンは、1 月から 9 月までアマダイ延縄漁を主体に、10 月から 12 月まではヨコワ曳縄漁を行っている（図 2）。時には小底の手伝いを頼まれる事もある。努力の甲斐あってか、最近は大田地区内でも先輩漁師に肩を並べられる程度の実績を残せるようになり、年々水揚げも増えてきている（図 3）。また、大田市の平均雇用所得と比較しても見劣りしない程度でもある（表 3）。ただ、今の収入でも生活はしていけるが、住宅ローンもあるので最低でも 500 万円の水揚げを確保したい。今後は前述の 2 魚種だけでなく、県や水産研究会が主催する講習会で学んだヒラメやサワラの漁法も取り入れて、経営の安定化を図っていくつもり

である。

## 5. 波及効果

最近、大田市漁協に I ターン希望する人が年々増えてきているという。漁協の参事から聞いたのだが、定住関連のパンフレットで私が紹介されたため、I ターン希望者の中には、私を目標として来る者が多いらしい。少しでも地域に恩返しができる嬉しく思う。

しかし、漁業の厳しさに耐えられず去っていく者も多い。大田市漁協では、これまで I ターンにより 29 名が小底の乗組員として就業したが、現在も続けているのはこのうち 13 名である。そのほとんどがサラリーマン出身で、その年齢層も 10 代～40 代までと幅広い（表 4、5）。就業前に理想と現実の差を充分検討する必要があるが、受け入れる地域の対応にもまだまだ問題が多いと感じている。

まず住居問題がある。県内の I ターン者の集会が毎年開かれており、最も必要なものは住居であると皆口を揃える。実際私も住居には苦勞した。魅力ある産業があっても、住居がなければ仕事はできない。漁協も漁業の担い手として I ターン者を頼りにしており、そのためには住居の確保が第一であることを行政機関に提言したい。

次に漁業技術の修得であるが、先輩漁師から個別に漁法や漁場を教わることは非常に難しいのが現実である。しかし、世襲が望めない今、漁業の未来を考え、貴重な漁業技術を I ターン者等へも伝承していく必要がある。また県では、漁業の技術修得を支援する制度を設けているものの、制度上使い難い面があると聞く。今後、一層の新規漁業者の定着促進を図るためにも制度の充実をお願いしたい。

最後は地域の対応であるが、私の場合は漁協や水産研究会の協力により比較的スムーズに自立できた。地域が I ターン者をよそ者扱いせず、受け入れる意識を持つことは、I ターン者にとって非常に重要なことである（図 5）。

過疎化・高齢化の問題を抱える漁村地域は、地域で育まれた漁具・漁法や伝統・文化が失われつつあるという。地域内で悩むのではなく、I ターン者も積極的に受け入れて工夫すればこのような問題も緩和できると考える。

## 6. 今後の課題

釣り漁業は資源を捕り尽くすことなく、魚をやさしく取り扱うことで付加価値も付き、長続きする漁業であると思う。漁業は決して楽ではないが、努力すればその分儲けもあり、魅力のある仕事である。私の場合、多少の漁業経験はあったとはいえ、漁船や住居の難関を持ち前の根気で乗り越え、漁師として自立することができた。今後も I ターンの担い手たちが多く集まるような環境が整えられるように、先駆者として頑張っていきたいと思う。

また、私にはマグロの一本釣という夢がある。かつて 20 年間マグロを追いかけた経験からマグロを釣るには水温、瀬の位置を知ることが重要である。この知識を活かし、いつかこの日本海でマグロを釣り揚げることを目標にこれからも漁師として生きていきたい。

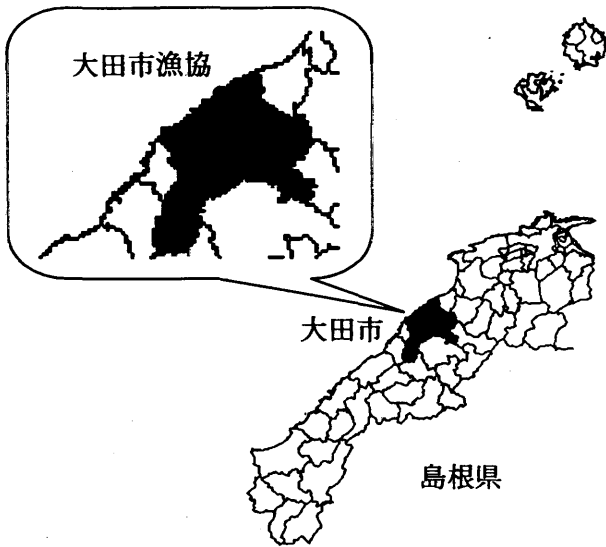


図1. 地域の位置図

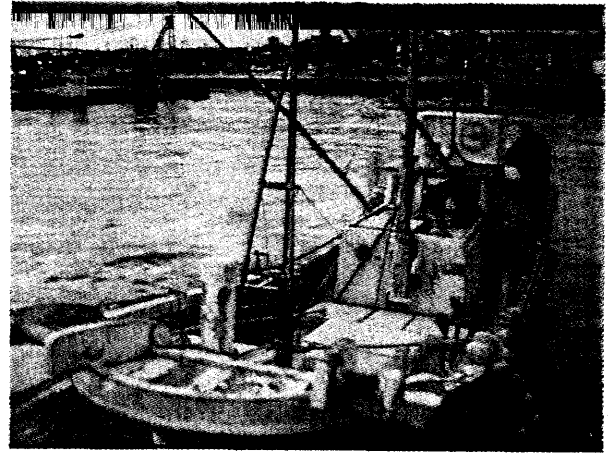


写真1. 宮章丸

表1. 自立に至るまでの歩み

11年9月	夫婦で大田市久手町にIターン
11年9月～ 12年5月	小底乗組員として従事
12年6月	乗船指導を受ける（イカ釣り、アマダイ延縄漁）
12年7月	大田市漁協の正組合員となる 船舶免許および無線免許取得
8月	漁船（宮章丸）購入
	仕掛け、餌について指導を受ける 出漁準備（仕掛けの製作、餌の仕込み）
9月	独りで出漁開始（自立）
13年2月	新居完成

表2. 自立のために費やした経費（概算）

漁船購入費	3,500,000
漁船改造費	500,000
漁具購入費	400,000
船舶免許取得費	260,000
無線免許取得費	40,000
漁船保険加入費	80,000
漁業共済加入費	50,000
合計	4,830,000

※赴任費、新築費用は除く

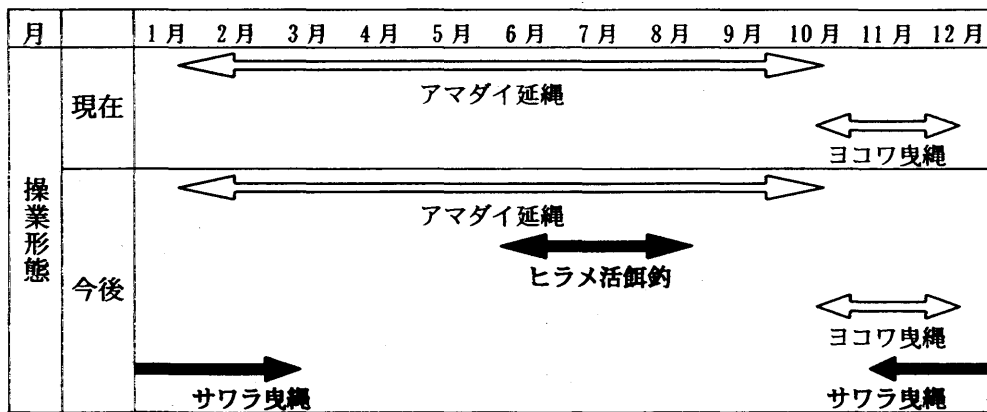


図2. 年間の操業スケジュール

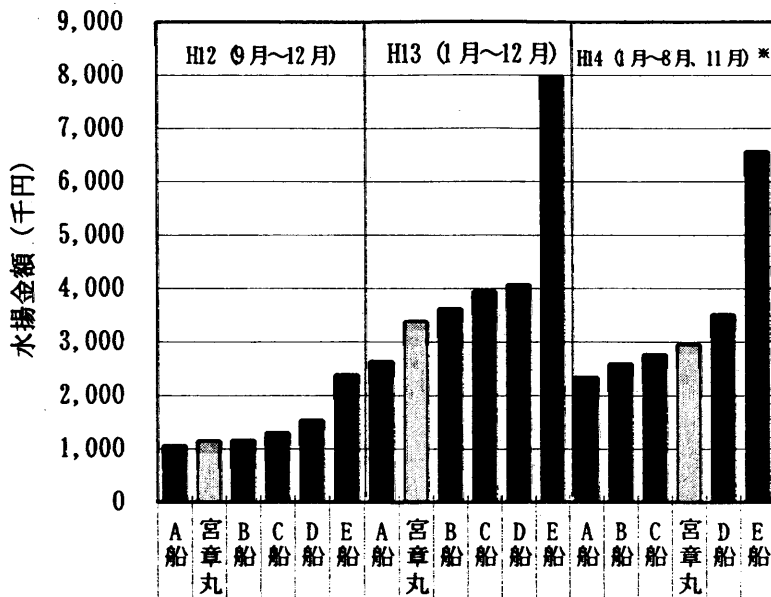


図3. 大田地域における宮章丸と他船との水揚げ状況の比較 (漁業種類、操業日数が同程度の船と比較した)  
 ※9、10月は小底の乗組員として従事したため、その2ヶ月間の水揚げ金額は全船とも集計から除外した。

表3 年間所得の比較

	年間所得 (円)
大田市の平均雇用所得 <sup>※1</sup>	3,334,883
宮章丸 <sup>※2</sup>	3,801,264

※1 「平成13年度大田市統計」の雇用所得と労働力人口より算出した。  
 ※2 沿岸漁業での水揚げ金額に小底の給料を加えた金額。

表4 Iターン漁業者年度別就業履歴表 (大田市漁協)

年度	着業者数	うち退職者数	現在就業者数
H10	4	4	0
H11	5	4	1
H12	1	1	0
H13	8	4	4
H14	11	3	8
計	29	16	13

表5 大田市漁協におけるIターン就業者の状況

No	出身	年齢	就業先	住居	就業年
宮本章	岩手県	47	自営・宮章丸	持ち家	H11
1	島根県	17	小底漁船	借家	H13
2	鹿児島	47	小底漁船	借家	
3	島根県	33	小底漁船	借家	
4	兵庫県	38	小底漁船	持ち家	
5	東京都	33	小底漁船	借家	H14
6	兵庫県	20代	小底漁船	借家	
7	長野県	20代	小底漁船	借家	
8	大阪府	20代	小底漁船	借家	
9	大阪府	20代	小底漁船	借家	
10	東京都	20代	小底漁船	借家	
11	京都府	20代	小底漁船	借家	
12	兵庫県	20代	小底漁船	借家	

※島根県大田市出身者以外はIターン者としてカウントした。

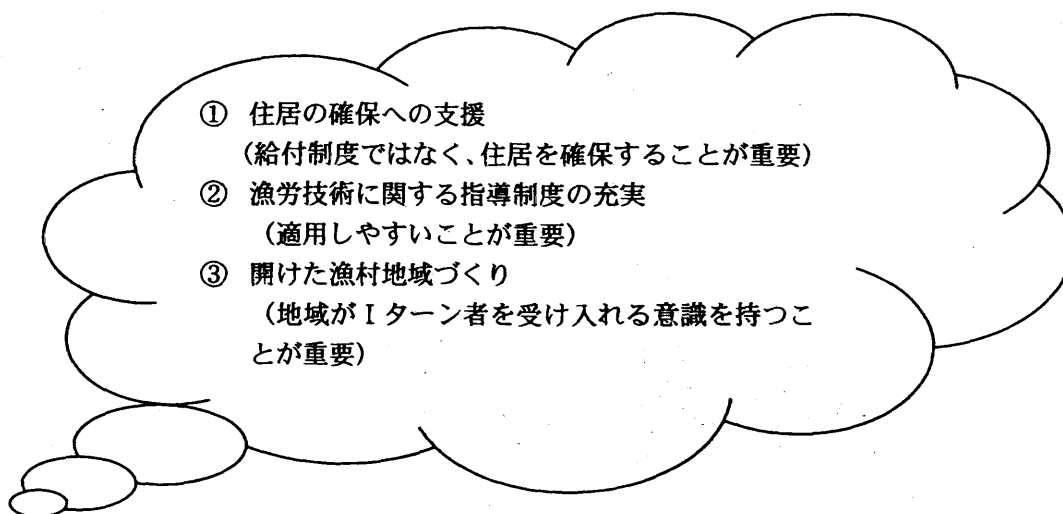


図5. Iターン漁業者についての私の提言